

科学研究費助成事業（特別推進研究）研究進捗評価

課題番号	24000015	研究期間	平成24年度～平成28年度
研究課題名	ラミダス化石等人類進化研究を中心としたマクロ形態研究の推進と基盤充実		
研究代表者名 (所属・職)	諏訪 元（東京大学・総合研究博物館・教授）		

【平成27年度 研究進捗評価結果】

該当欄		評価基準
	A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A	当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	A-	当初目標に向けて概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
	B	当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である

（評価意見）

人類化石に関する発掘調査は、一般的に不確実性が高いが、研究代表者はチョローラピテクスの化石を倍増させ、産出層の年代を800万年前と推定するなど、順調な成果を上げている。また、コンソ地区の調査では、アシュール形石器の起源と初期変遷について国際的に評価される論文を発表した。一方で、アルディピテクス・ラミダスの化石資料に関する詳細な形態解析に基づいて、人類進化史におけるラミダス化石の位置付けに関する優れた論文を発表した。さらに、本研究費により購入したCTスキャン装置などを活用し、スキャン情報をもとに最新技術を駆使して咀嚼器や足骨の形態と機能に関する研究を進めている。順調に研究は進展しており、期待どおりの成果が見込まれる。

【平成29年度 検証結果】

検証結果	平成27年度の研究進捗評価以降、それまでの研究成果の論文発表は順調に行われてきた。調査の主対象の一つであるエチオピア・チョローラ地区の地質層序の年代について、慎重な解析により定説を覆す研究成果を上げ、これについても国際的に注目される論文発表を行った。また、研究代表者の独壇場ともいえる化石のCTスキャン情報取得については、装置を発掘地のエチオピアで運用し、チョローラピテクス化石全点をはじめ、600万年前から10万年前の時代の膨大な三次元スキャン情報のデータベース化を進めた。以上のことから、期待通りの研究成果が得られたと言える。今後、これまでに収集した化石資料や上記三次元スキャンデータを用いた更なる研究成果を期待する。
A	